

## 3 科目概要

1年生

科目名/ 科目責任者	授 業 概 要
現代文明論Ⅰ/ 新村 直子	「現代文明を考える」というテーマで、人生や歴史・世界について考える。現代文明とそれがもたらした様々な問題について、その実態を知り、現代に生きる人間として、何をなすべきかを考える。講義は、「建学の精神と現代文明論」「現代文明の光と影」「文明の未来を考える」の枠組みで構成される。講義後に受講用紙を記入すると共に、すべての講義後に、「現代文明を考える」というテーマでサブテーマをしばり課題レポートにまとめる。
現代文明論Ⅱ/ 新村 直子	「生活を科学する」というテーマで一社会人として生活のもたらす様々な課題について考え、地球人として未来に向けて何をなすべきか自らの思想を培う。講義は、「生活を科学する」「生活を豊かに」「生活と社会」「生活と科学」「未来に向けて」の枠組みで構成される。講義後に受講用紙を記入すると共に、すべての講義後に、「生活を科学する」というテーマにもとづき、各自、サブテーマをしばり課題レポートにまとめる。
文化人類学/ 小池 佑二	地球上の多くの人間の社会・文化に関して調査・研究し、人類文化に普遍的な法則を見出そうと努力してきた。その調査・研究の過程で、人間の文化の多様性ととも、一見説明困難な問題に突きあたっている。そのような多様性や「謎」についての解釈を通じて、「文化とは何か」、「人間とは何か」文化人類学の著名な研究者の業績を紹介しながら系統的な学習を目指す。
地球環境と科学 ／内田 晴久	人類の様々な環境問題を取り上げ、人間および生命と地球環境との関係について理解を深め、我々が理想とする生活の在り方や行動のあるべき姿を実感し、己の言葉で表現し、自分の考えに基づいて他者に伝えることができるようになることを目指す。
芸術と表現/ 中村 朋子	西洋美術史上において広くその普遍的価値を認められた名品を鑑賞することを通じて、「芸術作品の持つ力」をあらためて認識し、その意味を考えてゆくことを目的とする。
コミュニケーションと対人関係 ／有沢 孝治	円滑な対人関係を形成していくためのコミュニケーションの基礎について学びながら、カウンセリングを基盤とした援助的な関わり方を演習を交えて学習する。
発達心理学/ 朝日 香栄	人間の誕生から始まり死に至るまで、各発達段階で直面する課題・問題と発達内容について生涯発達・発達臨床的な観点から概説する。また、看護師を目指す人々にとって職業的に必要な人間理解と、様々な人との関係作りの基礎についても扱っていく。自分自身のこれまでの発達や人間関係を振り返りながら、体験的に考え人間に対する理解を深められる授業である。
経済のしくみ/ 井上 孝	科目の目的は、経済の仕組みと経済学の考え方を知ることにある。それを達成するために、三つの部分に関して進めていく。第一には、人間はなぜ経済活動を行なうのか、第二に、経済活動の主役たち（これらを経済主体とよぶ）はどんな動機で、経済制度を作り上げているのか。第三に、いまわれわれが直面している問題を解決するためにどのような経済政策をとろうとしているのか、本科目の受講者に関心があると思われるテーマを例にとって考える。

ことばと表現／ 緒川 直人	医療・看護・福祉や教育などにおいて報告書やレポート(論文)の執筆が重要である。職業人になるための必須の素養であるレポートを書くための基本的な技法と心構えを学び、表現力の向上を目指す。
国際理解とデン マーク看護研修 ／秋元 とし子	諸外国の異文化に触れ、そこから日本を考える機会にする。実際にデンマークを訪問し、主にデンマークの社会・文化・福祉、および医療や看護の実際に触れ、これからの社会や医療・看護のあり方、自己のあり方について考えを深める。
情報検索と活用 ／津田 道雄	現代社会におけるさまざまな情報の中から必要なものを的確に効率よく見つけ出し活用する能力が求められている。看護学・生命科学系の文献データベース検索を実習しながら、将来医療現場で役立つ情報検索法、情報の整理・活用法を学習する。
情報の処理と分 析／須藤 真由美	医療統計学の専門知識を持ち、医療データをコンピュータを利用して、客観的科学的に分析できることを目的とする。情報の的確な収集・整理の方法を理解し、表計算ソフトを利用して集計し、図や表などのさまざまな表現方法を学ぶ。
英語：スピーキン グ／Jon Mudry	This basic level speaking class will focus primarily on learning to interact with classmates in English about various topics. There will be a small amount of listening and writing activities to facilitate more interest and supportive vocabulary and grammar.
英語：ライティン グ／ Thomas Hanson	This course will introduce students to paragraph writing. It will focus on creating short, well-written paragraphs leading to composition construction. Students will learn and practice the basic mechanics, involved in writing paragraphs and essays. Lessons will encourage accuracy and fluency through both structured activities and time for guided free writing. In order to pass the course, students must demonstrate their ability to handle these basic functions.
英語：リスニング ／飯沼 好永	病室で使われる基本的な英会話や日常生活の様々な場面における英会話を聞きながら、リスニング力並びに英語の表現を学習していく。またリスニングのスキルとして、全体を聞き取るもの、細かな情報を聞き取るもの、等の聞く目的にあったスキルを上手に使い分けることができる訓練も同時に行っていく。
英語：リーディン グ／中田 明子	米国の看護師による文献を読解し、米国の看護教育・医療現場に触れる。医療情報・医療文献の読解・表現能力を身につける。単語一つ一つにとらわれることなく、内容の要点をつかめるよう指導を行う。英文の書かれている順に読解していくことに慣れるために「スラッシュ・リーディング」という方法(区切りごとに独立した意味をとる)を用いて学習を進める。
フィットネス理 論・実習／ 亀田 里奈・ 大津 克哉	生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を、理論と実習を通して身につける。「こころとからだの健康」を維持・増進するための、体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を学習し、運動・スポーツの科学的知見に基づいた、エアロビクス運動(有酸素運動)・筋力アップ運動・コンディショニング運動を実践する。
スポーツ理論・実 習／西垣 景太・ 大津 克哉	スポーツの理論と合理的な実践方法を学習し、その良さを自ら生活に取り入れることができる能力を身に付け、生涯を通じての健康づくりと実践の方法を学ぶ。「卓球」「バレーボール」を授業教材として取り上げる。

現代医療論／ 灰田 宗孝	医療チームの一員として質の高い看護を提供することの重要性を認識するために、現場の看護師をはじめ医師、薬剤師、栄養士、リハビリテーション技師、臨床工学技師あるいはメディカルソーシャルワーカーなど他職種の講師によりそれぞれの専門性につき学ぶ。そして、各専門職の人たちがどの様に看護職と連携し、また看護師に期待されるものは何かにつき理解を深める。
疫学と生活環境 ／相川 浩幸	疫学・環境保健を中心に予防医学、保健統計、疫学、環境保健、母子保健、精神保健、地域保健、学校保健、産業保健、国際保健協力を含めて総合的に学習する。
人体の構造／ 二見 眞一郎	人体の構造を学ぶことは、臨床上にて正常な人体の状態、それに対する病態を正しく把握するうえでの大切な基礎知識となる。本科目は名称など覚える事項も多く、さまざまなイラストやプリントを用いつつ基礎からしっかりと学んでいく。
人体の機能／ 泉 義雄	解剖学、組織学などの形態についての基礎的知識から、各々の器官の働きについての相互の関係付けを通して、個体全体としての働きに関心を持ち、生命現象を学習する。内部環境の恒常性、神経性調節、ホルモン調節などの人体の恒常性維持機構について学習する。神経系および感覚器については、人体の構造で学習するので除く。
代謝と栄養／ 泉 義雄	人体は皮膚粘膜によって覆われ、外界と区別された固体であり、体内では血液・組織液を介して細胞一つ一つに栄養や酸素を行き渡らせている。細胞はそれらを使ってその細胞固有の機能を果たし、生産物や不要老廃物を血中に排出している。60兆個にもなる細胞の活動を保持するためには、体内に十分かつ適切な栄養素が取り込まれ円滑に代謝が行われる必要がある。代謝の乱れは、内部環境（体内環境）に乱れをきたす。この乱れこそが、病気である。
感染と防御／ 泉 義雄	感染症の成立の条件（感染源、感染経路、感受性者）、病原微生物について概説する。感染症を飛沫・接触感染する疾患、食物を介する疾患、性感染症・血液を介する疾患、その他に分けて学ぶ。感染症の主要症状と治療について学び、感染症新法に定められているⅠ類からⅤ類の代表的疾患について学ぶ。院内感染についても学習する。
臨床病態学Ⅰ／ 泉 義雄	疾病の成り立ちと回復について学ぶ。まず、種々の疾患にみられる基本病変について学習した後に、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎臓・泌尿器疾患について学習する。
臨床病態学Ⅱ／ 二見 眞一郎	臨床にて遭遇する様々な疾病について、それらの病態、症状、検査、治療法等について、イラストやプリントを用いつつ解説していく。本科目は脳神経疾患、血液疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患、精神医学における疾病について解説する。
看護学概論／ 吉田 礼子	看護とは何か、看護学とは何か。先人の考え、歴史の変遷、社会的位置づけなど広い観点から看護の本質を考え、自己の看護観を養うとともに、看護の現状を知り、未来に向けたビジョンを持つことで、生涯にわたる看護の学習・実践・探究の必要性和意義・喜びを見出せることをめざす。
看護アセスメントⅠ／蔵本 文乃	看護の対象の健康状態を把握するために必要なバイタルサインの観察技術を含めフィジカルアセスメントの理論と方法を学習する。 講義は、人体の構造と機能などの人間を理解するために必要な基礎的知識を活用しながら理解を深め、演習では学生同士がペアになり看護師役・患者

	<p>役を体験する。的確な技術で正確な情報を収集し、対象の心身の状態を把握する為に、情報が示す意味を考える技術を学習する。</p>
看護アセスメントⅡ／吉田 礼子	<p>「その人にあった看護」を実践するための方法として、問題解決思考のプロセスである看護過程のうち、アセスメントおよび問題の明確化について学ぶ。看護過程展開には、知識や技術を活用し柔軟で多面的に思考を働かせることが重要であることから、クリティカルシンキングについてもあわせて学習する。情報収集の時から看護は始まっていることを意識し、分析的見方に偏らず、全人的な見方ができることをめざす。</p>
看護の基本技術Ⅰ／秋元 とし子	<p>看護実践の基礎として、看護技術のとらえ方を考えるとともに基本的技術としてコミュニケーションおよび安全を守る技術について学習する。</p> <p>①アートとサイエンスの融合としての看護技術について ②コミュニケーションとカウンセリング ③感染防止の技術</p>
生活過程を整える看護技術Ⅰ／林 真理子	<p>その人の生活を支えていく生活の意義、生活環境、姿勢と動作、活動・休息・睡眠、電法、衣生活などについて基本的な援助方法を理論と実践を通して学ぶ。単に方法を学ぶのではなく、自らの生活と照らし合わせながら理論と関連づけて考え、他者への援助をするために必要な技術について学習する。</p>
生活過程を整える看護技術Ⅱ／林 真理子	<p>生活過程を整える看護技術Ⅰにひき続き、その人が健康でその人らしく生きるために必要としている身体の清潔、栄養と食生活、排泄など生活過程を整えるために必要な基本的な援助方法を既習の知識と技術を活用し、理論と実践を統合しながら学習する。単に方法を学ぶのではなく、自らの生活と照らし合わせながら理論と関連づけて考え、他者への援助をするために必要な技術について学習する。</p>
精神看護学概論／瀧澤 直子	<p>本科目では、ライフサイクルと精神保健の視点で、我々の日常生活に関心を向けながら、生活の場における精神的不調について学習し、精神看護学の基本概念を学習する。</p>
成人看護学概論／丹澤 洋子	<p>ライフサイクルの中の成人期にある人に焦点を当て、対象を総合的・全人的に捉えあらゆる健康レベルに対しての健康問題を整え、生活の営みを可能な限り豊かにしていくこと、さらに健やかな老年期を準備することへの看護について学習する。成人期にある人の成長・発達の特徴、生活と健康、及び成人を取り巻く社会・環境保健対策について概観し、成人看護の役割を達成するために活用可能な理論を理解する。</p>
老年看護学概論／横島 啓子	<p>ライフサイクルの最終段階である老年期の特徴を理解すると共に、加齢に伴う心身社会的機能の変化と特徴から個々の高齢者の理解を深め、家族形態の変化と社会システムの変化や高齢者の権利擁護等、高齢者を取り巻く社会の視点から看護の果たす役割を学習する。</p>
小児看護学概論／今瀬 繁子	<p>新生児期・乳幼児期・学童期・思春期それぞれの発達課題と健康問題について学習する。①乳幼児期の成長・発達と生活援助②学童期の子どもの成長・発達と生活援助③思春期の成長・発達と生活援助④小児期の健康の問題とその対策⑤小児と親の権利と看護倫理</p>
基礎看護学実習Ⅰ／秋元 とし子	<p>実習目的は、患者と関わり対象理解をすると共に、患者—看護師の関わりの場に共に参加し、看護について考える。具体的には①患者がどのような体験をしているか、②看護がどのように実践されているかに関心がもてる。③看護師の患者への気遣いや配慮に気づく④患者の入院環境を理解し、看護が</p>

	<p>医療チームの人々と協力しながら行われていることに気づく。⑤実習を通して自分についての理解を深め、今後の成長の方向性をえがく。</p>
--	---

## 2年生

科目名/ 科目責任者	授 業 概 要
看護と関係法規 ／吉田 礼子	看護に関係する法規について、憲法を中心とした法の基本的理念と仕組み、看護師等関係職種の資格・役割・義務等についての規定、医療・薬事に関する規定、予防・衛生に関する規定、社会福祉に関する規定、労働に関する規定など幅広く知り、対象となる人（たち）の健康と幸福を守るための活動に活用してゆけることをめざす。
社会福祉論 ／岩田 香織	病気や障害など何らかの健康上・生活上の問題を抱える人々への援助においては、病気・障害の回復を目指すのみでなく個人の生活を捉え地域社会で自立生活を営むことができるための支援が求められる。本講義においては法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題について学習する。
臨床薬理学/ 二見 眞一郎	臨床治療においては薬物治療というものは大変に大きなウェイトを占めるものである。本科目においては、薬物投与での体内動態、有害事象などの基礎知識からはじめ、臨床で遭遇する様々な疾患への実際の薬物治療について、病態との関連等にも触れつつ解説する。
臨床病態学Ⅲ ／灰田 宗孝	手術治療を中心に代表的な治療法および診断法を取り上げ、それらを取り巻くさまざまな関連領域についての理解を深める。また外科療法の代表的疾患を取り上げ、周手術期の管理と医学的諸問題について学習する。①救急医療と主要救急患者の病態と治療。②手術と麻酔について。③術式による生体機能の変化と主要な術後合併症の発生メカニズム、要因と患者への影響、予防的ケアについて。④代表的な腫瘍の外科的治療とそれらに関連する治療。⑤内視鏡下での手術の特徴・適応疾患、手術侵襲と回復過程。⑥日帰り手術の定義・適応疾患および条件、回復過程と退院基準。⑦画像診断の原理と実際。⑧放射線治療の原理と実際。⑨ME 機器とその管理。
臨床病態学Ⅳ/ 泉 義雄	病気の原因や病気の形、病態と機能や代謝の変化について環境への適応と関連付けて理解し、疾病の成り立ちの概要と治療・予防について学習する。 ①出生前の疾患と治療、性・生殖器の障害（産婦人科疾患）、②小児の疾患と治療、③整形外科的疾患と治療、④感覚器官の障害と治療（眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科口腔外科）、⑤東洋医学について、医学部非常勤講師をまじえて専門的に理解を深める。
看護の実践/ 吉田 礼子	「その人にあつた看護」をめざし、看護過程の後半部分にあたる計画・実施・評価について学ぶ。既に学習しているデータベースアセスメント・関連図からの問題の明確化に加え、焦点アセスメントによる問題の確定について学ぶとともに、患者目標と具体策の立案、評価・修正について学習する。アセスメントを活かし、科学的理解に留まらず、人間的・共感的理解に基づいた実施をめざす。
看護の基本技術 Ⅱ／秋元 とし子	健康の段階やライフサイクルにかかわらず、検査・治療時に共通する技術である①診療過程における看護師の役割、②検査と看護の方法、③薬物療法と看護、④診察時の看護の方法について理論および演習を通して学習する。
健康の段階と看護基礎技術/ 蔵本 文乃	急性の経過をたどる患者、慢性の経過をたどる患者、終末期にある患者、さらにこれらに共通するリハビリテーションを必要とする患者に分けて、各健康段階の概念と治療の特徴、患者のニーズについて学習する。さらに健康

	上の問題を解決する看護の機能や役割を認識し、援助に必要な知識、技術、態度を習得する。
基礎看護学実習Ⅱ／ 林 真理子	既習の知識を活用し、臨床の場で患者とかかわり対象を理解し、その人が必要としている看護を生活過程に視点をおき、看護過程のプロセスにそって展開する。また看護実践を通し、看護観を深めることができる。
成人臨床看護Ⅰ／ 丹澤 洋子	手術は、生体に対して意図的に損傷を加えるものであり、患者は手術という侵襲を受けたことで、生命の危機や心身の苦痛状態にさらされる。周手術期(術前・術中・術後)に患者が体験するであろう心身の変化や様々な問題を予測し、順調な経過がたどれるよう、周手術期における患者の看護に必要な基礎知識と技術について学習する。
成人臨床看護Ⅱ／ 中谷 啓子	成人看護学概論で学習した知識・理論を基盤とし、さらに、慢性的な疾患や障害を抱えながらも、それを受容し人生のQOL向上を目指し生活を再構築しようとする成人期の対象について理解を深め、その対象への看護について学ぶ。また、この学習過程をとおし、看護専門職者としての自己の在り方をみつめ、看護観を養う。
成人臨床看護Ⅲ／ 中谷 啓子	成人看護学概論で学習した知識・理論を基盤とし、さらに、慢性的な疾患を抱え疾病コントロールのため自己管理を必要とする成人期の対象について理解を深め、その対象への看護について学ぶ。また、この学習過程をとおし、成人期にある人を対象とした教育指導に必要な看護師としての能力について考えを深め、看護観を養う。
成人臨床看護Ⅳ／ 阿部 ケエ子	これまでに学んだ知識・技術を活用し、周手術期患者の看護過程を学ぶ。特に、周手術期各期の特徴的な状況に対応できるようアセスメントの視点を学び、問題解決能力の向上をめざす。 また、急性の経過をたどる循環機能障害をもつ患者の看護に焦点を当て、迅速な判断・対処に必要な基礎的知識や精神的援助について学ぶ。
老年臨床看護Ⅰ／ 飯室 淳子	高齢者は、加齢に伴い生じる様々な機能の変化により健康が脅かされやすい状態にある。その変化の特徴を踏まえて、高齢者の誰もがができる限り健康的な生活ができその人らしい人生を送ることができるように支援する役割が高齢者を支える看護に求められる。本科目では、老年期に特徴的な障害・疾患について理解し、健康を支えるうえでの看護の技法や様々な症候や状態・状況に応じた看護について学習する。
老年臨床看護Ⅱ／ 後藤 雪絵	急速に進行する高齢社会において、高齢者看護の重要性と役割が増してきている。高齢者看護の場も、病院だけではなく介護老人福祉施設、介護老人保健施設など多様であり、支援の形も、地域においては訪問看護により高齢者の生活の場に出向くなどさまざまである。高齢者を生活者と捉え支援していく考え方や、ケアマネジメントの方法を学び、社会保障制度において、高齢者医療・保健・福祉対策の変遷、介護保険法についての基礎的知識を養う。
小児臨床看護Ⅰ／ 橘田 節子	小児看護は、成長発達の段階と健康状態にあった生活能力を発揮できるように働きかける。子どもの病状、治療、それらによる制限からの苦痛を取り除き、子どもらしく療養するために必要な看護について学習する。

小児臨床看護Ⅱ ／今瀬 繁子	健康レベルに応じた小児の看護と健康を障害された小児とその家族についての看護方法について学習する。①健康レベル各期における小児とその家族の看護について学習する。②母子相互のニーズを把握し、家族参加の必要性を認識しながら健康を障害された小児とその家族について、個別的な看護の方法について学習する。
性・生殖と看護／ 望月 好子	女性のみならず男性の身体と心の特徴もふまえながら、人間にとって健やかな「性と生殖（セクシャリティ）」について、理解を深めていく。その中で女性が健康を獲得し、豊かな母性を成長させていくプロセスや、リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて、また、母（父）と子との関係性や家族形成期における母性の健康問題についてなど、新しい家族の誕生期にある人々の健康を支えるための基礎的な知識を学ぶ。
母性臨床看護Ⅰ ／小川 景子	妊娠・分娩・産褥期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康的な生活が送れるよう援助するための基礎的知識を学習する。①妊婦の健康生活への援助 ②分娩準備教育と分娩各期の看護 ③褥婦の健康生活への援助
母性臨床看護Ⅱ ／望月 好子	母性看護（特に周産期における援助）に必要な知識と技術を習得することを目的とする。特に、新生児の生理的な特徴とその看護を理解する。また、事例による看護展開および保健指導案等の立案を通して、周産期（および周生期）にある対象への看護の理解を深め、母性看護学実習の中で活用できるようにする。
精神臨床看護Ⅰ ／吉野 由美子	精神看護においては、目に見えにくい現象を把握していく必要がある。精神の健康問題をもつ人への援助の必要性を考えるために、生活のしづらさを体験している状況への参与の手だてや、患者－看護師関係を基盤とした援助技術と自己活用の仕方を学習する。
精神臨床看護Ⅱ ／瀧澤 直子	精神臨床看護の対象は、疾病と障害を併せ持つことで何らかの生活上の問題を抱える人であり、また健康な側面を持つ人である。生活の主体者はあくまでも精神障害者本人であると捉え、自己決定の原則に立って援助を考えてみる。
在宅看護概論／ 中田 芳子	在宅看護では、地域で生活しながら療養する人と家族の両者が対象となる。そのため、療養者や家族の療養生活が、より充実するような支援方法について学習しながら、看護の役割を理解する。①在宅看護の位置づけと役割②在宅看護が求められる社会的背景③施設内看護と在宅看護の相違と特徴④家族の理解と健康支援④継続看護の必要性など
在宅看護論Ⅰ／ 新村 直子	在宅で暮らす療養者は、年齢や病状のみならず、生活習慣、家族背景、居住環境など個別性に富んでいる。そのため、多様な療養者や家族の希望や状況に合わせてケアを提供する必要がある。在宅看護論Ⅰでは、基礎看護学などで学習した内容を基に、在宅における日常生活援助の演習を体験して、創意工夫や経済性を考慮した援助方法について理解を深める。
在宅看護論Ⅱ／ 中田 芳子	在宅看護は、家庭という場に訪問して行なわれるため、コミュニケーション技術は信頼関係を築いていく上で重要となる。そこで、在宅療養者と家族及び訪問看護師とのコミュニケーションについて学習する。また、療養者の疾患や病態に応じた看護、在宅での医療管理を必要とする人の看護についても学習する。①訪問時のコミュニケーションとマナー②在宅療養者の疾患や病態に応じた看護③在宅での医療管理を必要とする人の指導や看護など



看護と医療安全 ／千葉 美果	医療事故は日常的に発生する可能性があることを認識し、過去の事故事例なども用い、なぜ事故が発生したのかを考え、医療事故を自分自身にも生じる身近な問題として捉える。また、人間工学に基づいた人間の行動理解をするために、日常生活を振り返り、自分の身の回りの安全対策について考える。医療安全の最新の教科書は臨床での取り組みであるため、臨床の看護師の講義も含め、医療安全について考え、安全に対する意識を高めていく。
家族看護学/ 新村 直子	人々が暮らしていく中で、「家族」は同居の有無にかかわらず大切、かつ重要な存在である。家族は、家族員の誰かが病気や障害を抱えたときに、一時的に、その機能は障害されるが、徐々に本来の姿を取り戻すよう変化していく。授業では、このような「家族の概念」について学習し、自分の家族観と比較し「家族」について捉え直し、その看護のあり方を考えていく。
看護研究の基礎 ／吉野 由美子	看護学は学問であり「看護は科学である」といわれている。看護師が専門職として、人びとにより質の高い看護を提供するためには、看護実践の中で生じた看護についての疑問や問題、課題を科学的に探求していくことが必要であり、それが看護研究である。この科目においては、看護研究の目的と意義、看護研究の過程を理解し、看護研究を行うための基礎的理論を学習する。
看護の理論 ／丹澤 洋子	看護の理論は、看護の目的、対象の見方、ケアの方法とを導き、看護師の看護実践を支えるものである。この授業では、看護理論家（ナイチンゲール・ヘンダーソン・オレム・トラベルビー・ペプロウ・ウィーデンバック・キング）の提唱する理論について学習し、自らの看護に対する考え方に活用し看護観を深めるとともに、実践の場で活用できるための素地づくりをめざす。
生命と倫理/ 望月 好子	現代の科学技術の発展に伴い、生命にかかわる医療技術も目覚しく発展してきたが、しかし一方ではそれゆえの新たな倫理的な問題も多く指摘されるようになってきている。ここでは特に、先端医療と生命倫理についての様々な問題の現状を知り、それらについて考えることを通して、学生個々の人間観・死生観・倫理観を深めていくことをめざす。

## 3年生

科目名/ 科目責任者	授 業 概 要
臨床病態学特論 ／泉 義雄	人は、疾病に罹患すると単独の器官系の障害にとどまらず複合した問題が発生しやすい。人体の構造と機能及び臨床病態学Ⅰ～Ⅳで学んだ学習内容について、臨地実習開始にむけて、対象となる患者をより臨床的に理解するための知識を再確認する機会とする。また、各看護学領域の学習と統合することで、看護師国家試験に向けての知識の統合とする。
リーダーシップ 論／横島 啓子	リーダーシップ論は、集団・組織・リーダーシップと「私」の関係からみていくことが重要になる。 リーダーシップの理論およびスタイルについて学習し、組織の一員として看護のリーダーシップ、保健・医療・福祉関係職との調整のためのマネジメントについて学習する。
看護の展望/ 藤井 幸子	医療の現場は日進月歩し、高度化、複雑化する保健医療社会の中で質的・量的にも効果的な看護サービスがも求められる。看護職集団が、秩序だった働きによって看護を提供していくには、組織としての管理が重要となる。今日のわが国の医療・看護の動向を把握し、効果的に役割を遂行できるような組織や体制のあり方、病院看護管理について看護部の最高責任者の立場から現状の問題を考察し、看護実践の場における看護管理のあり方を実際を通して学習する。
在宅看護実習/ 中田 芳子	在宅療養者とその家族の多様性と個別性を理解し、看護の役割と他職種との連携について学習する。また、外来看護の役割と特徴を理解し、施設内看護と在宅看護の継続や相互の連携について学習する。
精神看護学実習 ／瀧澤 直子	精神保健上の問題を抱える対象が、その人らしくその問題解決ができるように関わり、その過程の中で生じる対象の反応や自己の抱いた感情を整理しながら精神看護の機能について学ぶ。
成人看護学実習 Ⅰ／丹澤 洋子	成人看護学実習は、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱから構成されている。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、対象の発達段階・発達課題、健康レベル、診断・治療を踏まえ、その対象に応じた看護過程の展開を通して、成人看護の特徴を学習することである。これを前提として、本科目は、成人期で手術を受ける対象やクリティカルな状態にある対象に応じた看護を通して、既習の知識・技術・態度の統合・向上を図る。
成人看護学実習 Ⅱ／中谷 啓子	成人看護学実習は、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱから構成されている。成人看護学実習の目的は、看護の対象としての成人を理解し、対象の発達段階・発達課題、健康レベル、診断・治療を踏まえ、その対象に応じた看護過程の展開を通して、成人看護の特徴を学習することである。これを前提とし、本科目は、成人期で慢性的な疾患を持つ対象に必要な看護を通して、既習の知識・技術・態度の統合、向上を図る。
老年看護学実習 ／横島 啓子	老年期にある対象の理解と自立した生活を支援するための看護の役割を理解する。 介護老人福祉施設実習では、介護福祉施設における高齢者の特徴と高齢者を支援する職種間の協働・連携について理解する。さらに、療養病院実習では、介護療養型医療施設、回復期リハビリテーション病棟、療養病床等において、高齢者の特徴と療養状況に応じた看護の実際から、看護の役割を理解

	するとともに、ソーシャルサポートシステムを理解する。また、高齢者の生活の場を通して、QOLを高める援助を実践する。
小児看護学実習 ／今瀬 繁子	小児の健康問題を総合的に判断し、健全な育成をめざして小児及び家族に対して個別的な看護が実践できる基礎的能力を養う。①健康を障害された小児の入院生活場面から、病気及び入院が成長・発達に及ぼす影響を考える。②疾病の経過に沿って必要な援助を考え実践できる。③母子相互のニーズを把握し、家族参加の必要性を認識する。④小児保健医療チームにおける看護職の役割と責任を理解し、協力できる能力を身につける。
母性看護学実習 ／望月 好子	「周産期（周生期）にある対象の理解、個々の対象に適した看護過程の展開、母性看護に必要な知識・技術・態度の学習、母性を取りまく保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・責任についての認識および生命の尊厳や母性について自己の考えを深める」ことを目標に、看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進していくために、必要な知識・技術・態度を学習する。